

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり1.63人と、前週と比べてやや増加しました。全国的にも増加傾向がみられます。

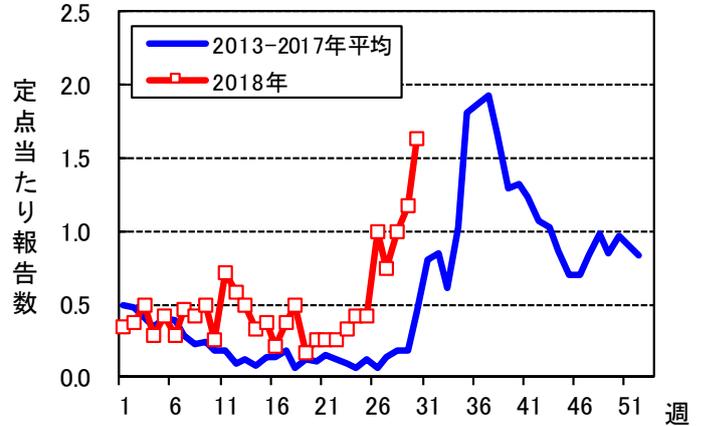
RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。症状は、軽いかぜのような症状から細気管支炎や肺炎などの重篤な症状までさまざまですが、生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、特に乳児への感染を避けるための注意が必要です。

咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃや手すりなどはこまめに消毒するなど、感染予防対策を心がけましょう。

2. 破傷風

今年初めて1件の報告がありました。(次頁参照)

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaaku-kansenshou19/rs_qa.html

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	10	0.27	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	6	0.25	0.75	
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.70	↓	眼科	RSウイルス感染症	39	1.63	0.45	↗
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	2.21	1.67	↔		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	82	3.42	3.80	↗	基幹	流行性角結膜炎	9	1.13	1.18	
	水痘	5	0.21	0.62			細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	61	2.54	4.64	↗		無菌性髄膜炎	-	-	0.14	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.31			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.17	
	突発性発しん	8	0.33	0.41			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	22	0.92	1.67	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.29		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	80	女性(70歳代)、男性(80歳代)、女性(90歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	4	男性(50歳代)、男性(80歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	9	女性(50歳代)
5	梅毒	3	69	男性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・2人
5	破傷風	1	1	男性(60歳代)
5	百日咳	2	28	男性(10歳未満)、男性(60歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎
			第26週	-	13	60	139	7	89	1	6	33	3	24	6	5	-	-	-	-
第27週	-	17	61	81	7	93	2	7	43	6	18	-	12	-	-	-	-	-	-	-
第28週	-	18	52	82	5	76	-	9	26	5	24	-	8	-	-	-	-	-	-	-
第29週	-	17	55	101	7	72	-	3	31	1	28	-	9	-	-	-	-	1	-	-
第30週	10	6	53	82	5	61	1	8	22	6	39	-	9	-	-	-	-	1	-	2
定点当たり	広島市	第26週	-	0.54	2.50	5.79	0.29	3.71	0.04	0.25	1.38	0.13	1.00	0.75	0.63	-	-	-	-	-
第27週	-	0.71	2.54	3.38	0.29	3.88	0.08	0.29	1.79	0.25	0.75	-	1.50	-	-	-	-	-	-	
第28週	-	0.75	2.17	3.42	0.21	3.17	-	0.38	1.08	0.21	1.00	-	1.00	-	-	-	-	-	-	
第29週	-	0.71	2.29	4.21	0.29	3.00	-	0.13	1.29	0.04	1.17	-	1.13	-	-	-	-	0.14	-	
第30週	0.27	0.25	2.21	3.42	0.21	2.54	0.04	0.33	0.92	0.25	1.63	-	1.13	-	-	-	-	0.14	-	0.29
全国	第28週	0.07	0.68	2.22	4.71	0.27	2.09	0.34	0.55	2.42	0.20	0.70	0.02	0.92	0.03	0.05	0.16	-	-	0.01
第29週	0.06	0.55	1.57	3.84	0.28	1.87	0.26	0.47	2.49	0.17	0.76	0.01	0.81	0.01	0.06	0.17	-	-	-	0.01

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(40.1) 紅斑 咽頭炎 下痢 腹痛 リンパ節腫脹	6	男	2018/06/09	糞便	アデノウイルス5型
その他の呼吸器疾患	発熱 上気道炎 下気道炎 心不全	1	男	2018/06/14	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	嘔吐 腸重積	2	男	2018/06/09	糞便	ノロウイルスG2 アデノウイルス2型
その他の消化器疾患	発熱(38.0) 腹痛 腸重積	0	男	2018/06/16	糞便	アデノウイルス5型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★破傷風に注意しましょう

破傷風は、破傷風菌が傷口に入り込んで感染・増殖し、産生する毒素により、さまざまな神経症状を引き起こす感染症です。破傷風菌は土の中に広く存在するため、がれきや土砂の撤去作業時は、感染のリスクが高まります。感染して3～21日で発症するとされていますが、創の状態や受傷者の免疫状態にも影響されます。

破傷風を予防するためには、作業の際は、素肌を露出しない服装(長袖、長ズボン)で、丈夫な手袋、長靴、安全靴などを着用し、手や足に傷を負わないよう注意する必要があります。けがをした場合は、すぐに傷口を流水で洗浄し、念のため医療機関を受診しましょう。

破傷風は、ワクチンで予防できる感染症です。必要に応じて、ワクチン接種を検討しましょう。また、定期予防接種対象者で必要回数受けていない場合は、早めに接種を受けましょう。

被災地域での感染症対策や衛生対策等については、以下のホームページをご覧ください。

●「屋外で災害復旧作業をされる方へ 災害ボランティア活動に参加される方へ」

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1532223663790/index.html>

●「水害時の衛生対策と消毒方法について」

<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1279109687058/index.html>

【問い合わせ先】 健康福祉局 健康推進課 保健予防係 (電話:082-504-2622)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第30週(7月23日～7月29日)